

Title	公開工業研究所に対する私見 ( 下 )
Sub Title	
Author	山崎, 繁樹
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.3 (1916. 3) ,p.359(87)- 370(98)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160301-0087">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160301-0087</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

昨年中毎月々初に於ける紐育電信爲替相場なり  
(平準相場は四弗八六仙半なり)

一月	四弗八四五	七月	四弗七七一二五
二	四 八四	八	四 七六七五
三	四 八一七五	九	四 六三
四	四 八〇	一〇	四 七二二五
五	四 七九七五	一一	四 六五六二五
六	四 七八七五	一二	四 七〇七五

英國の外國貿易は輸出に對して、輸入の超過するもの甚だ多く、米國の有價證券が或る程度まで英國の所有者に依て、紐育に賣戻されたりと雖も、其效果大ならず、八月に至つて前表の示す如き相場を呈し、結局英佛聯合の公債の發行を見ることゝ爲れるものなれども、相場は容易に平準點に近づく能はず、遂に大藏大臣マツケン氏をして米國有價證券の賣戻計畫を案出するに至らしめたり。

佛蘭西は米國に對する關係に於ては、英國に類似するものありと雖も、一方に同國は英國に債務を負ひ、隨て倫敦宛參着相場は巴里に於て著しく騰貴したり。即ち開戦當初二三箇月間は相場は平準點以下に居れるが、昨年二月以來次

第に上進し九月には二十七法六十と爲れり。是れ輸入の劇増に加ふるに、金輸出の困難なるが爲めに相場の恢復を妨ぐるものにして昨年中毎月初の參着相場左の如し。(平準相場は二十五法二十二半なり)

一月	二五法二二	七	二七法一〇
二	二五 一〇五	八	二六 九〇
三	二五 三三	九	二七 六〇
四	二五 五二	一〇	二七 二三
五	二五 五二五	一一	二七 五三
六	二六 〇一	一二	二七 四五

諸國の爲替相場は中立國を介して、其變動を知るを得べく、和蘭の爲替市場は戦争以來重要と爲り、倫敦市場の業務を蠶食するに至れると共に、和蘭貨幣は他國貨幣の價格の標準たり。左表は昨年十一月中旬に於ける諸外國貨幣の和蘭貨幣に對する打歩を示すものなり。

伯 林	四八、〇二五	五九、二六	一割九分
維 納	三四、〇六二五	五〇、四一	三、二五
コ ー ン	六三、六五	六六、六七	四五
倫 敦	一一、二二	一一、二二	七五
紐 育	二三九、六五	二四八、〇八	三七五

### 公開工業研究所に對する私見 (下)

山 崎 繁 樹

翻て歐米諸國に於ける理化學工業に對する研究機關を一瞥すれば、獨逸には伯林王立材料試験所、帝國物理學研究所の外カイゼル維廉科學研究所あり、佛國には工藝試驗所あり、英國には國立物理化學研究所あり、北米合衆國には國立標準局あり、其他富者篤志家又は工業會社自身の私設に係る研究所は殆んど枚擧に遑あらず、就中米國の「カーネギー」研究所の如き其規模の廣大なる世界第一と稱せらる。又獨逸「エルバーフェルド」染料會社が四十人の博士を顧問と爲せるを知らば、如何に其規模の大にして新研究に巨費を投せるかを想像し得らるべく、又併て(一九〇五年秋)化學研究所設立協會(Verband Chemische Reichsanstalt)が伯林に開催したる相

談會に於て、研究所及所長官舎建築費に百六十萬馬克を支出し經常費を約二十二萬馬克とするの議を討議するや、伯林「アニリン」染料會社(エルバーフェルド會社に比すれば其規模素より小なり)の一重役が自身の會社が研究に對して消費する金額にも及ばざるの故を以て其經常費の過少なるを極言し四十萬馬克説を主張したるが如き、更に馬獅子會社の如き大工業會社が皆新研究の爲めに年々幾十萬圓の財を消費して惜むなきに見れば、如何に一般を通じて戮力協心理化學の學理と之れが應用の研究とに努力しつゝあるかを想見し得ると同時に、歐米文明國の化學工業の隆盛なる其由來する所決して偶然に非ざるを知り得べし。

今獨逸の先覺者にして化學の大家なる「エミルリフイジヤ」ネルンスト、「オストワルド」三氏の手に成れる化學研究所設立趣意書の一部分を次に摘録せん。

斯の如き研究所を設立し並に維持せんには固より尠からざる資金を要す。然れども試に當國(獨逸)に於ける工業の發達せる所以を見、其貧弱なりし當國が富強に進める所以を考へ、世界の競争に覇者たらんとすることを思は、其得る所の大なるに比して更に拒避すべきの理あるなし、營利を目的とする打算に鋭き商會社に於ては、出費を償ひて更に利益を來すにあらざれば研究費に巨萬の財は消費せざる筈なり、特に大會社大工場と言はず今日の如き化學工業の改良發展は實に直接に新研究の營利上必要なことを示すものにして、今日に於ては小工場小會社に於ても實驗所の設備なきはなく新研究に力を注がざるはなきなり。斯の如くして科學は工業に入り發明の舞臺は大學より工場に移り、各會社は特別任務を帯びて工業の望樓に立ち總ての科學上工業上特許上の發刊物を漁り學會に出席し注視し傾聴し須臾も注意を忽せにせざるのみならず、自ら工場の研究室に於て何がな新し

き著想を得んとして實驗を怠らざるなり。是れ新研究の營利上缺くべからざることを確證するものにわらずして何ぞや。既に研究は營利と相反せずせば十億を超ゆる化學工業品に對して豈數萬の支出を惜むの理あらんや、萬々一平和破裂の場合の爲に常に巨萬の財を武裝の爲に消費して顧みざるに思ひ至らば、此の如き生産的にして國家の富強を來たし人類の幸福を増進すべき計畫に對して毫末も惜むべき所以を見ざるなり云々。

秘萃文と雖も意味最も明瞭にして能く化學研究所開設の必要を道破せるものなれば、此一斑を看て以て其設立趣意書の全豹を窺ふに足るべきなり。而して配布されたる此趣意書は先づ豫定の效果を持來たし、一九〇八年には既に會員數四十一人(此口數五十八口)に達し、又當局者と連絡成れる結果政府は無償にて敷地を下げ渡し、文部省は伯林大學の正教授を所長に任命

し且其俸給を負擔することゝなれり、恰も好し此事實と相前後して獨逸皇帝維廉二世は豫て自身が胸裡に描ける私立科學研究所設立の計畫を伯林大學の一百年祭に臨みて發表せらるゝや、化學研究所設立協會は之れに唱和し皇帝主載の科學獎勵皇帝維廉協會 (Kaiser Wilhelm Gesellschaft zur Förderung der Wissenschaften) は研究所設立協會の採りたる方針を賛し、之れに向て援助を與ふることゝなれり。即ち一九一一年十月設立協會は其財産百二十五萬馬克の中より九十萬馬克を支出し維廉協會は之れに二十萬馬克の助成金を交附して建築費に充つることゝし、別に銀行家「ロツペル」氏の寄附に係る「ロツペル」基金より物理化學研究所の建築費として約百萬馬克を支出し、此年建築に着手翌一九一二年十月竣工し皇帝臨御して開所式を開けるもの即ち現在の「カイゼル」維廉科學研究所 (Kaiser Wilhelm-Forschungsinstitut) の内の化學研究所及

物理化學研究所にして兩者各々獨立せり。註して謂ふ右獨立二研究所の外夫々「カイゼル」維廉の帝名を冠せる實驗治療學研究所、石炭研究所、職業衛生研究所、生物學研究所の外「ロツイニオ」生物學研究所あり後者は其持主「ロツイニオ」の死に因りて維持艱難となり獨逸聯合學士院が其維持策を講じつゝあるの狀に鑑み協會は斯業獎勵の爲に資金を出して引受けたるものなり。化學研究所は「ベクマン」を所長とし一般化學研究所の機關は實務委員、事務評議員及科學評議員の三者より成り第一者は一般事務管理を司るものにして五名の會員より成り内二名は研究所設立協會より、二名は維廉協會より、二名は文部大臣より指名せられ第二者即ち事務評議員は第一者の事務處理を檢查監督し且豫算を定むることを以て其任務とし第一者に屬する者及研究所設立協會の指名する十名の會員、維廉協會の指名する九名の會員より成立す、而して第

三者即ち科學評議員は斯學專門大家を代表する六名の學者並に設立協會、維廉協會、「コッペル」基金の三者より出せる代表者各二名宛合計十二名より成る。又物理化學研究所は「ハーバー」を所長とす其機關並に内容は次に掲ぐる其規程の摘要に依りて之れが大略を知ることを得べし、

第一條 カイゼル維廉物理學研究所は獨逸皇帝普魯西國王陛下の主裁の下に在りて物理化學電氣化學に關する科學上の研究を進むるを以て目的とす。

第四條 研究所の機關は(甲)資金委員會(乙)科學評議員會(丙)研究所長の三者より成る、

第五條 資金委員會は「コッペル」基金評議員より選ばれたる二名、監督官廳より出でたる二名、及所長より成る(二項省略)。

第八條 研究所をして「カイゼル維廉化學研究所」又は其他既設の化學研究所機關との連絡を密接ならしむるが爲めに研究所に科學評議員

を置く、右はカイゼル維廉化學研究所の科學評議員と同一にして専門學者の代表者六名、維廉協會の代表者二名、研究所設立協會の代表者三名及「コッペル」基金の代表者二名より成る(後略)。

第九條 科學評議員會は研究上の相談に與り研究所長の計畫を遂行する爲に助力を加ふ、

第十二條 所長は豫算を超過せざる範圍内に於ては其欲する所の研究を行ふこと全く自由なり即ち其研究題目の選擇實行に就ては何等の制限をも受くることなし(後略)。

第十四條 所長は其研究を遂行する爲に共同研究者(助手)並に中位下位の役人を任命し又は罷免す(後略)。

第十五條 所員以外の獨立研究者が其研究を遂行せんが爲に研究所の設備を使用せんとするときは所長は資金委員會に諮り之れを收容するや否やを決す、收容せられたる獨立研究者を追

出す場合も同じ、

獨立研究者は其題目を選び研究を遂行する上に何等の制限をも受くることなし、

第十七條 所長共同研究者又は獨立研究者が研究所の實驗機關を用ひて爲したる有利の發見發明は研究所と當人との間に結ばれたる契約によりて處分せらる、資金委員會は此契約の權利を捨つることあるべし、

第十八條 次年度に於て經常費の増加を得んと欲せば所長は詳細なる理由を附して豫算を作る、殊別の増加を要求する場合にあらざれば研究施行により生ずべき費用の總額を申出づ(二項及三項省略)。

第二十二條 毎年四月所長は前年度に於ける重要事項に就て報告書を出す、資金委員會は右の報告書に基き研究所に關する年報を作成す、

第二十三條 豫算決算及年報の寫し及研究所より出したる論文は遲滞なく資金委員會よりコ

ッペル基金評議員會宛及監督官廳宛に提出す、

第二十六條 「コッペル」基金の廢せられたる場合には基金評議員會の權能は監督官廳に移る(後略)。

「コッペル」基金規定第六條記載の年利子三萬五千馬克(研究所經常費の一部として毎年出金せらる)が盡きたる場合、「コッペル」氏又は其相續者若しくは基本財團が更に引續き同額の出金をなさいれば基金評議員會は研究所委員の内へ唯一人の代表者を指命するの權を有す(三萬五千馬克を出す間は二名出すことを得れとも爲らざれば一名に減せらるとの意)。

第二十七條 研究所閉鎖の場合には殘留せる財産は普魯西國國庫の有となる國庫は之れを研究所設立の目的に相當する用途に向く、

抑も人類は其必要に應ずる所の頭腦と其自在なる所の手とを使用して他の總ての生物に打勝ち又文明人は更に其手を延長したるが如き器具

器械を使用して野蠻人を征服したり。機械使用の結果は常に野蠻人との間に社會上經濟上著しき差違を生ぜしのみならず、文明人間に於ても能率の優れる機械を使用する國民と其劣れる機械の使用に甘んずる國民との間には動もすれば經濟上の懸隔を生せんとしてあり。而して自然の儘受入るゝことに依りて充さるゝ人間需用の限りある範圍を、更に工夫的能力即ち創造力に依りて漸次に推し廣げ以て人間の生存及國民的生存競争に必要な状態を創造し行く點が即ち文明人の特徴にして、更に強大國として武力と財力とに於て世界に覇を競はんには、大に勞力を節約し大に生産力を増加すべき優秀なる機械を創造し盛んに之れを利用するのみならず、矚目接手悉く研究の對象となし、以て微を穿ち細を鑿り不要のものを必要なるものに變化せしめ、舊法を改良し新法を發見し自然を解剖し、而して其結果を受入れて餘す所なからんことを

爲めの研究所を設立することを要するなり、是れ即ち我國民經濟の爲めにして又富國の根本義たるなり。

然るに役人を試験者又は研究者とする研究所は兎角に職掌一遍に流れ且つ沈滞に陥り易くして著しき效果を得難し、我農商務省管理の工業試験所大阪府立工業試験場の如きは之れに屬し且試験が主にして研究は従たるなり、又實社會の要求に伴隨する研究は單に學生の指導に適應する研究題目を課する所の専門大學の試験室又は研究室に望むべきにあらず、又目下問題となり居る理化學研究所の計畫内容並に其事業の一般を検すれば、製造工業の現狀に照らし之れが將來の指導に對して其必要なることは勿論なりと雖も、其時と共に變化する實社會の要求を十分遺憾なく満たし如上の沈滞を防ぎ且つ各方面の刺撃を確實にし以て化學工業發明等の勃興を完全に催進し得るや否や尙ほ疑問なきを得ざる

要す。佛國人は飛行器を發明して天空を利用する交通を開き、自動車を發明し輕快至便の交通機關を作爲し、潜航艇を發明し海軍戰術に一新紀元を開き、「ラジウム」を發見し化學者の夢を破り、又狂犬病の治療方法を發見し幾多小兒の爲めに悲惨の運命を救ふに至りしが如き、又獨逸人が人造アリザリン、人造藍其他の人造染料、藥劑、人造香料、六〇六號即ち「サルバサン」  
X光線等を發明したるが如き其他英佛米の産に係る「ラヂウム」類似元素の發見、元素轉化の發見若くは空氣中に存在する多數稀元素の發見、最も精密確實なる化學量論的研究、無線電信、無線電話の發明等の如き凡そ今日國際競争の局面に必要な機械科學並に工業の進歩の日に月に盛んなる所以のものは皆研究者苦心の費ならざるはなく研究なくして此進歩あることなし、即ち此進歩を贏ち得んには研究者をして只管研究に専心ならしむ外なし換言すれば研究の

なり。

發明の根源たる研究的精神の有無は國家社會の利益に對する特別の觀念と趣味とを別問題として概論するときは、資産を有すること多き者に缺け却て資産を有すること少なき者若くは無資産者が之れを有することは、即ち既に富める者よりは、如何にして其享有する富を増殖すべきかに付考慮を廻らすに反し、薄資又は無資産の者は名利を贏ちて成功すべく工夫研究に心血を傾注するが故にして、偶々此名利心に對する成功が即ち國家社會を利益する所の發明發見を持來するものとす。然れども如何に鬱勃たる研究的精神と雖も研究に要する元本と研究機關なくして、之れを發揮することを得べからざると同時に、國家社會も亦其發揮に係る結果を收獲することを得ざるなり、我國の發明家は從來餘り寵遇され居らざれば實際爲さんと欲して爲し

能はざるなり。

民間には隠れたる微力の發明家工夫家夥し、彼等に向て適當にして現代的なる研究の機關と材料とを提供し、財政上顧慮することなくして自由に研究せしむれば、必ずや茲に發明的才能の發揮を觀得べく、又彼等の中より發明發見に對する天才を發見し得らるべく、隨て歐米人を吃驚せしむるに足る大發明大發見全く無しと限らざるなり、假令這の如き世界的大發明又は大發見は現れずとするも、彼等の考へ得る力、即ち創造力を以て切磋琢磨の繰返さるゝ研究の功に依りて、不要のものを必要のものに變化し、舊法を改良し新法を起し、大に勞力を節約し大に生産力を増加する所の發明發見が成就せば、其が持來す所の我國家社會の經濟上の利益や實に偉大なるものあらんとす、是れ即ち吾人が如上の前提を盡し而して公開工業研究所を論じ社會に向て其開設を慫慂する所以なり。

研究的精神を有する者が、自由に出入して研究し得る公開工業研究所は、眞に時代の要求する所に屬し又其開設は焦眉の急に迫れり、蒔ぬ種子は生へざる諺の如く、又自由研究の機關は地味肥沃なる園圃の如く、工業材料は種子の如く、發明家工夫家は栽培者の如し、肥沃なる園圃と種子とを提供せずして優秀なる果實の收穫さるべき筈なし。今や歐洲の大戦亂が偶々我國に倖ひし、我官民にして精勵努力せば、東亞の市場は我手に獨占するに不可能ならざる表徴あり。即ち英獨兩國は戦後如何に貿易の擴張に銳意するとも、財政上の壓迫と勞力の減損との爲め大に産業上の發展を妨ぐる結果、戦前の盛況に復する迄には意外の歲月を要するや明かにして、我商工業は尠くも五八年の間は雄を東洋の市場に稱するを得べしと雖も、之れを維持する力足らず又我供給する貨物にして其眞價乏しければ、折角販路を擴張するとも忽ち他國の競争

者の爲めに奪ひ去らるゝに至るべし。故に現下東洋市場に競争上の勁敵なしとて安心し油斷すること最も非なり。前にも既に述べたるが如く由來我國製品の不詳は粗製品を供給したるにありと云ひ得べく、小資本を以て經營せる小工場多く工場設備の不整頓、機械能率の劣弱、試験又は研究設備の不備等に存すれば、粗製の弊を矯正すると同時に優良品及立派なる工業的發明品を製出することを大に奨励せざるべからざるなり。化學工業の方面に於て官民の共に俱に盡力すべき途や多かるべしと雖も、公開工業研究所の如きは蓋し急務中の急務なりと信ず。

公開工業研究所は自由なる活動に遺憾なきことを要す故に會計検査等繁鎖なる拘束なく自由に迅速に金錢を支出し得んが爲め官省を離れ一助成金の下附は別問題とす一篤志家當業者等の寄附財團に據るを便とすべし(一)一カイゼル維廉科學研究所の成立並に基本財産も之れに據れ

り又研究的精神ある技師學者を所員とし又共同研究者とすべく(二)工業の實際家、専門學校の教師、工場 of 技師職工其他研究的精神に滿ちたる獨立研究者を收用して自由に研究せしむべし(三)尙ほ又臨時の小研究に對して圖書館的施設の下に隨意研究の爲めの出入を簡便ならしむべし(四)。

今左に公開工業研究所の分料施設に對する吾人の理想を掲げて世の識者の教を乞はん。

◎公開工業研究所

○工業圖案部

一、製圖々案作成に要する器具を備ふ。

一、各種發明品、工業製品等の圖案を陳列す。

標本室

一、化學工業製品を陳列す。

寫眞攝影室

一、普通寫眞器、天然色寫眞器並に寫眞撮

影に要する藥品材料を備ふ、

圖書室

一、理化學、機械其他各種専門科學に關する書物を備ふ、

○應用化學部

分析室

一、定性、定量、分析用器具を備ふ、

藥品室

一、理化學工業用各種藥品を備ふ、

應用化學實驗室

一、應用化學實驗に要する器具を備ふ、

塗料實驗室

一、顔料粉碎器、印刷インキ各種ペイント製造器械を備ふ、

漆工室

一、漆器製造に關する設備、

○電氣化學部

電氣化學實驗室

一、熔鐵爐、坩堝熔解爐、起重機、扇風機、送風機械等の設備、

仕上工場

一、各種鋸盤、「シカルパン」、「シャーピンマシ」  
「フライスパン」、各種錐揉機械、齒輪切機械、孔列機械、金切機械、車軸楔路削取機、平削機、堅削機、磨削機、鋸機械、成形機、石油發動機、電動機、輕便起重機等の設備、

木工場

一、木工鋸盤、圓鋸機械、帶鋸機械、柄切機械、溝切機械、木材削機械、「モールディングマシン」、面取機械、穿孔機、等角機、壓搾機、電動機、鋸齒目立機、鉋及研磨機等の設備、

木材乾燥室

一、木材乾燥罐等の裝置、

金屬細工場

一、電氣化學實驗に關する設備、

○電氣機械部

製作工場

一、水壓々搾機、鐵板打板機械、鐵板切斷機械、發電子鐵板齒形打板機械、錐揉機械各種、鋸盤等の設備、

實驗室

一、光度計、小抵抗測定器、鏡電流計、諸精密電氣測定器、オスシログラフ、ポテンシオメーター等の設備、

○機械部

工業用材檢定場

一、強弱試驗器、屈曲試驗器、金屬屈曲機械、衝擊力試驗機、壓力計及真空計檢定機、瓦斯發熱量試驗等の設備、

鍛工場

一、蒸汽鉋、扇風機、其他鍛工に要する設備、  
鑄造工場

一、鍍金裝置、落下鉋、板金工作機、小細工裝身具等の設備、

原動機實驗室

一、蒸汽及瓦斯「インデケートル」、蒸汽濕度試驗器、高溫度試驗機、自記動力計、各種測面器、蒸汽罐、各種不凝機關等の設備、

○窯業部

水簸室

一、水簸裝置(攪拌機、除砂溜、除砂溝、沈澱溜)、泥漿混和機、壓搾除水機等の設備、

成形室

一、機械輾軋、手輾軋、蹴軋軋、素地土捏練機、粉碎機、紉臼、硝子摸樣付砂吹機、空氣壓搾機等の設備、

窯場

一、各種窯、陶磁器燒成用圓窯、硝子熔融、瓦斯窯、セメント燒成試驗窯等の設備、  
○動力場(附屬浴場)

一、發電場、一、變壓場

○總務部

一、庶務課、(附屬俱樂部及相談部)

一、會計課

一、用度課

一、倉庫課、(附屬小出し場)

一、調査課

一、統計課

註して謂ふ各方面の工業家は各一方に偏し直接に自己の利益を齎らさざるものは措て顧みざるが故に此等の智識を綜合し研究に資するは重要事に屬す、惟ふに各方面の學者研究者と連絡を取り特に工業の實際家と意見の交換を爲すことは、各方面の研究を促し之れを進むるに最も有利なる方法なり、庶務課に附屬せしめたる俱樂部及相談部は即ち之れが手段たるなり。

要するに我國は漫に驕るべからず誇るべからず怠るべからず、内は武力財力を充實するに就

きての有ゆる方法を攻究詮講し、外は國威を維持し國權を伸張することに努力すべし。我國の態度次第にて國利民福は招來せらるゝなり。己に業に論述したるが如く英獨佛露の産業發展上の阻碍即ち物質的影響は、平和克復後と雖も其戦前の状態に復するまでには相當の年月の経過を要す。故に今に於て我官民相俱に精勵し學術の進歩を計り、人類需要の缺乏を補充する程の一大覺悟を以て、從來歐洲諸國の供給したりし市場に向て我物貨を盛んに供給し、茲に動搖せざる堅固の販路を設定することに努力し奮躍して時勢の必要に應ずれば、國力は次第に伸び國威は次第に振ふべきも、若し世界の機運が我れを利益しつゝあるあるを悟らず、自ら驕り自ら怠りて此千載一遇の最好機會を捉へ得ずんば、我は終に落伍の國民となるべし。好機一たび逸すれば復容易に到來せざるなり、我官民共に俱に率先して此絶大機會を捉へ以て國運の興隆を必期すべきなり。(三九)

日支銀行法案概評

三宅嘉十郎

一 緒言

國際貿易の消長が國際金融業の盛衰と相關すること大なるは言を俟たざる所にして、殊に文化の低度に在る地方を開發して、新に市場を開かんとするが如き場合に於ては一層海外銀行(註)の活動に負ふ所大なるものあり。歐洲列強が極東支那市場に睿戀するや、齊しく各自其海外金融機關に依て其金融的勢力を利用し、平和の間に各種の利權獲得に努むる所あり、殊に日清戦後其勢を逞しくせしは吾人の常に憂慮の眼を以て目撃せし所、對支金融機關設立の事は疾くより我國人の間に唱道せられつゝありし所にして、日露戦後日清銀行設立の議ありしも

當時日支の經濟連絡事情尙ほ未だ今日の如く密ならざるものあり、對支那の金融事務は横濱正金銀行及び日本興業銀行に於て之を分掌することとし、何等特別機關を設立するに至らざりき然るに彼我の經濟關係は其後益々密を加へ、且我對支工業政策の漸く日支合辦に向はんとするに及び、日支金融機關設立の必要再び世の注意を引くに至れり。昨年五月日支新條約の締結を見、我の支那に對するの地位は更に一層の強固を加へ、其獲得したる各種の利權を確保するには、相當の經濟的施設の之に伴はざるべからざるの感ある折柄、内地の金融緩慢は三度對支金融機關設立論を喚起するに至りしなり。茲に於てが政府も去る二月三十一日、日支銀行法案並に滿洲銀行法案を議會に提出したり。本稿に於て論評せんと欲するは前者即ち日支銀行法案にして、滿洲銀行法案には論及せず。蓋し滿洲は我殖民地とも謂ふべく従つて此處に設立せらる